令和２年１月29日

釜石市議会議長　木村琳藏　様

民生常任委員会
報告者　磯﨑　翔太

行政視察報告書

民生常任委員会による行政視察を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

１　視察項目
（１）　京都府　舞鶴市　『子育て交流施設「あそびあむ」運営事業について』
（２）　愛知県　江南市　『乳児避難所について』
（３）　三重県　　津 市　『水道局応急給水拠点強化事業について』

２　視察日程
令和２年１月２１日（火）～令和２年１月２４日（金）
（１）　令和２年１月２１日（火）　移動日（舞鶴市へ）
（２）　令和２年１月２２日（水）　京都府　舞鶴市
（３）　令和２年１月２３日（木）　愛知県　江南市（午前）三重県　津 市（午後）
（４）　令和２年１月２４日（金）　移動日（釜石市へ）

３　参加者
・　民生常任委員会（６名）
千葉 榮 委員長、磯﨑 翔太 副委員長、高橋 松一 委員
平野 弘之 委員、細田 孝子 委員
※水野昭利 委員は、私事都合により欠席
・　同行職員（水道事業所）　見世 健一 主査
・　議会事務局　小山田富美子 事務局次長

4　研修概要　『京都府　舞鶴市』

（1）　視察自治体

京都府　舞鶴市　令和２年１月２２日（水）

（2）　視察場所

舞鶴市議会会議室

子育て交流施設「あそびあむ」

（3）　舞鶴市概要

・　舞鶴市は人口約８万人で、日本海唯一の軍港として栄えてきた。
・　戦後は引き揚げ港に指定され、ソ連や満州、朝鮮などから帰還した邦人の積極的受け入れを行った。
・　当市も、国際貿易拠点港として北東北有数の自治体であるほか、他地域からの方を受け入れる寛容な姿勢が特徴として挙げられることから、舞鶴市との類似点も多いと見受けられる。

（4）　子育て交流施設「あそびあむ」運営事業について

・　研修に先立ち、舞鶴市議会議長の上羽和幸氏による歓迎挨拶の後、千葉委員長が挨拶を行った。
・　子育て交流施設「あそびあむ」運営事業ににについて、健康子ども部 中西阿里主幹から別添資料に基づき説明が行われた。

（5）　主な質疑応答

Q　実証実験を通して、施設の内容等について検討を重ねたとのことであるが、実証実験で得られ、施設に生かされていることは何か。

A　施設内に親が休憩できるような椅子を設置しないことである。椅子を設置してしまうと、親と一緒に子どもが楽しむということが出来なくなる。親は休憩して、あとは子どもだけで自由に遊んでくださいというのは当施設の目的ではない。子どもと一緒に親が地べたに座って遊ぶことが重要であると考えている。

Q　子育てだけでなく、『親育て』もとのことであるが、具体的な話を伺いたい。

A　近年、子どもの虐待案件が増加傾向にあり、リスクのある特定妊婦数も増加している。舞鶴市の場合、母子手帳配布した妊婦の約１割がこれに該当している。子どものための親としての土台を形成し、虐待等を未然に予防することが親育てであると考えている。

（６） 所感

- 舞鶴市は、夏は暑く冬は寒いだけでなく、雨や雪も多く降ることから天候に左右されることなく伸び伸びと体を動かして遊べる場所が欲しいという要望が長年続いていた。
- 子どもを育てることへの支援だけでなく、親になる当事者を育てることへの支援を行うことで、虐待等の発生リスクを軽減させることを目標としている。
- 屋内に設置されている遊具については、大型遊具をただ設置するのではなく、上手下手で評価される遊びではないもので、無駄なことが楽しいと思えるプログラムを提供することに注力している。
- 当市においては、復興事業等の影響により子どもが自由に遊べる公園やそれに準ずる施設等の整備に遅れをとっている状況である。また、子育て世代のコミュニティ形成や、子育て当事者間のコミュニケーション、父親の積極的な育児への参加等について支援体制の強化が求められていると考えられる。以上のことから、民生常任委員会として引き続き、子育て支援や親育てについて議論を交わしていきたい。

わび・さび

５　研修概要　『愛知県　江南市』

（１）　視察自治体

愛知県　江南市　令和２年１月２３日（木）

（２）　視察場所

愛知江南短期大学

こーたん避難所（乳児避難所）

（３）　江南市概要

・　江南市は人口約１０万人、工業で栄えてきた都市であり、交通アクセスも良いことから名古屋都心部への通勤、通学者も多い。
・　１９５４年の昭和の大合併によって現在の江南市が誕生した。
・　木曽川の南に位置していることから、大雨や大型の台風等の影響により大規模な水害が発生することも懸念されている。

（４）　乳児避難所「こーたん避難所」について

・　研修に先立ち、愛知江南短期大学の伊藤由香学長より歓迎の挨拶を頂いた後、千葉委員長が挨拶を行った。
・　乳児避難所「こーたん避難所」について、都市整備部 松本幸司主幹及び伊藤学長から別添資料に基づき説明が行われた。

（５）　主な質疑応答

Ｑ　一般市民が避難できる一次避難所との差別化はどのように図っているのか。

Ａ　江南市でリスクが高い災害は風水害、地震、原発だと想定している。水害が発生した際には、小学校が指定避難所として活用されるため、棲み分けはできている。乳児避難所は、多くの乳児が避難することに主眼を置いている。

Ｑ　震災時に乳児避難所は必要であったと認識している。その一方で、備蓄品等については使用期限が決められていると思うが、その処分方法等については。

Ａ　粉ミルク（スティック状）は併設する子育て支援センター利用者に使用いただくこととしている。液体ミルクが手軽に利用できるという話もあるが、世間一般に幅広く浸透しているかどうか、利用状況についても調査が必要だと考える。コスト面からも検討する必要がある。

（６） 所感

- 東日本大震災における当市を含む被災自治体の経験を参考とし、新たな防災機能として、乳児避難所として開設するに至った。先の震災では、妊産婦や乳幼児はよりきめ細やかな配慮が必要であると改めて認識された。
- 避難所の必要備品等については子育て支援センター利用者などの子育て世帯からの寄付を募る形で収集し、コストを抑えつつ備蓄する仕組みを構築している。大学祭の福祉バザーにおいても不要品の提供を頂いているが、大幅な入替時期においては、自治体からの支援が欲しいとの意見もある。
- 先の震災から被災していない自治体が学び、有事に備えている。その一方で、当市においては配慮を要する方々の避難について十分であるとは言い難い。誰一人取り残すことなく、配慮が必要な方でも安心して避難できるような体制の構築が望まれていることから、民生常任委員会として防災行政についても引き続き議論していきたい。

６　研修概要　『三重県　津市』

（１）　視察自治体

三重県　津市　令和２年１月２３日（木）

（２）　視察場所

津市議会会議室

応急給水拠点強化事業

（３）　津市概要

・　津市は人口約２８万人、平成１８年に周辺の９市町村と合併し現在の津市となる。港湾都市でもあり、近代では造船、重工業を中心として発展してきた。

・　津市の地域特性として、道が入り組んで狭いことが挙げられる。人口規模は比較するまでもないが、当市の特徴である急傾斜地区が多く、土地も狭隘である点について類似しているともいえる。

（４）　応急給水拠点強化事業について

・　研修に先立ち、津市議会の藤本ともこ副議長より歓迎の挨拶を頂いた後、千葉委員長より挨拶を行った。

・　応急給水拠点強化事業について、水道局総務課の中西友幸課長及び坊山貴一主幹から別添資料に基づき説明が行われた。

（５）　主な質疑応答

Ｑ　受援体制の重要さについて認識していることは何か。

Ａ　災害が発生した際に、応援で来てもらった方に的確な説明、指示ができなかった。被災状況、給水車の業務内容を見て取れるように改善を行った。応援職員等のリーダーに説明を実施し、彼らを起点に指示を出せるようにマニュアルを作成した。

Ｑ　各小学校の受水槽に蛇口を備えることとした経緯は。

Ａ　万が一、震災等の影響で建物内に異常が見受けられた場合には小学校内からの給水は不可能となる。受水槽であれば給水可能だと判断した。水質や、衛生面でも問題がなく、応急給水として迅速に対応できる。

（６） 所感

- いつでも避難ができるように、最低限の飲料水や食料は確保していることが望ましいと言えるが、長期間の断水等に陥った場合にこの事業は真の効果を発揮するものと期待している。
- 給水車による給水となれば、職員が常駐する必要があり、災害時においては効率的な人員動員とは言えない。その一方で、給水車が各避難所の受水槽に給水して効率的に市内を巡回出来れば、必要な人員を常駐させる必要がなくなる。
- 必要最小限の当市で最大の効果を発揮することが期待できるのであれば、民生常任委員会としても、引き続き事業の検討を議論したい。